



委員会だより



～推進委員会の経過報告～



早いもので、「委員会だより」創刊号の発行から、既に半年が経過しました。推進委員会では去る5月20日に開催された第3回委員会におきまして、大栄地区統合小学校については、教育委員会からの説明や、今年4月に開校した成田市初の小中一貫教育校『下総みどり学園』への視察、大栄中学校校舎の老朽化の現状などを考慮して、小学校と中学校の施設一体型の小中一貫教育を目指すという方向性を確認していただいたところです。

施設一体型の小中一貫教育を行うために、統合小学校は単独で建設するのではなく、大規模改造の時期を迎えている既存の大栄中学校も同時に建替えを行い、小学校と中学校との一体型校舎を新しく建設するものです。

教育委員会では、本年度、学校建設に係る基本計画・基本設計業務を進めておりますが、地域の皆様のご意見を伺うため、基本計画（案）等について、推進委員会でご協議いただきましたので、その経過をお知らせします。



第4回推進委員会（8月7日）



新校舎の基本計画（案）を協議



基本計画は、学校敷地内に小中一貫教育校校舎とグラウンド、野球場、テニスコート、駐車場、スクールバスロータリー等の施設をどのように配置するかを決めるものです。

8月7日に開催された第4回推進委員会では、教育委員会から3つの案について、説明を行いました。新しい学校を建設する場所は、現在の大栄中学校の敷地に決まっています。中学校の敷地面積は約57,000㎡（下総みどり学園は56,000㎡）と十分にありますが、北側に向かって低くなる横長の形状である等、施設配置上の制限もあります。

●●● 基本計画（案）のイメージ ●●●

教育委員会では、3案ともに一長一短があるものの、施設整備後の教育環境、工程、工事期間、工事費等を総合的に判断すると、現在の野球場のある場所に校舎を建設し、既存グラウンドを活かし、既存中学校校舎の解体後、同所に野球場を整備する案が、適切であると考えておりました。

推進委員会においても、施設整備後の教育環境や開校時期がもっとも早期になるという同案を支持することで、合意していただきました。

なお、大栄地区にはB&G海洋センターがあることから、新しい学校にプールは計画しておりません。



この図は、現在の大栄中学校の敷地に新しい学校を建設するための基本計画のイメージです。実際の形状等は
このとおりではありません。

第5回推進委員会（11月11日）

～委員長が交代しました～

推進委員会設立以来、委員長を務めた佐藤勲氏が、本年10月1日付けで、成田市教育委員に就任したことを受けて、推進委員会委員を辞任することになりました。

後任には、同じ津富浦学区の加藤智明氏（吉岡）が選任され、その後、委員の互選により、新委員長に選任されました。

加藤新委員長となった推進委員会に対しまして、今後とも地区の皆様のご協力をお願いします。



～新校舎の基本設計（案）を協議

敷地内における新校舎等の配置については、概ね決定しましたので、教育委員会では、校舎の基本設計に着手し、校舎の形状や教室の配置等の検討を進めています。

今回は、検討途中の案をお示しし、協議していただきました。この案は、小学校の学級数を17学級（うち特別支援2）、中学校10学級（うち特別支援2）を設計条件として、4階建てとし、小中一貫教育で前期ブロックにあたる1～4学年の教室を1、2階、中期ブロックの5～7学年（中1）の教室を3階、8・9学年（中2・3）の教室を4階に配置しています。また校舎と一体で大小2つの体育館を設けています。

今回の設計業務を受注した設計事務所は、他の自治体で小中一貫教育校の設計実績があり、多くのノウハウを持っています。

また、『下総みどり学園』の先生方の意見も聞きながら、より教育効果を上げることができ、子どもたち、教職員、そして、学校を利用する地域の皆様の使い勝手の良さを考慮して設計を行っています。

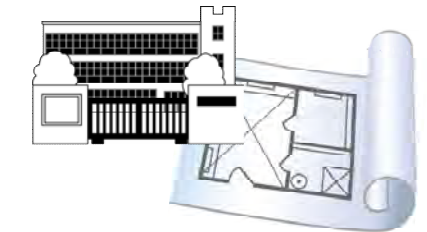
推進委員会からは、新しい学校は地域で唯一の学校になることから、是非いい校舎を建てて欲しいという要望をいただきました。教育委員会では、今後も、地域の皆様方からご意見をおうかがいしながら設計を進めてまいります。

～下総みどり学園の現状～

大栄地区統合小学校は、小中一貫教育校を目指すことから、推進委員会委員の方々にも、その内容等をよく知っていただくために、『下総みどり学園』では、どのような教育が行われ、どのような効果や課題が表れているのかについて、教育委員会から説明させていただきました。

『下総みどり学園』では、1～9学年のうち1～4学年を前期ブロック、5～7学年を中期ブロック、8・9学年を後期ブロックとして区分しています。そして、■4学年を前期ブロックリーダー、7学年を中期ブロックリーダー、9学年を学校全体のリーダーとして育てる。■通常は中学校から行う教科担任制の授業を中期ブロックである5学年から行う。■1～9学年を縦割にした班で清掃活動を行う。■入学式、卒業式、体育祭、文化祭等は全学年合同行事として行い、生徒会紹介、部活動、合唱等はブロック単位で行う。校外学習等は学年単位で行う。■1～4学年は45分授業、5～9学年は50分授業を標準とする。・・・このようなことを具体的方針として学校経営が行われています。

具体的な成果が表れるには、今しばらく見守っていく必要がありますが、子どもたちは異学年との交流が進むことによる変化を見せ始めており、例えば普通の中学校では1年生にあたる7年生は中期ブロックリーダーとして自覚を持って、しっかりとした行動をとる等、確実な効果を上げています。



推進委員会のメンバー（敬称略）

- ◎加藤 智明（津富浦学区）※委員長
- 大越 かおる（大須賀学区）
- 平野 幸一（桜田学区）※副委員長
- 高橋 照典（前林学区）
- 遠藤 昇（川上学区）
- 玉井 實（区長会長）
- 飯嶋 孝（青少年健全育成協議会会長）
- 鈴木 昭夫（青少年相談員地区会長）
- 高木 浩司（大栄中PTA会長）
- 高松 常子（大須賀小PTA会長）
- 山崎 和恵（桜田小PTA役員）
- 菅澤 文男（前林小PTA会長）
- 酒井 路子（津富浦小PTA会長）
- 金杉 勝弘（川上小PTA会長）
- 菱木 宏（大栄幼稚園PTA会長）
- 佐藤 貴子（大栄保育園保護者代表）
- 渡邊 邦明（大栄中校長）
- 金山 京子（前林小校長）※副委員長
- 葉山 憲一（大栄中教頭）
- 石井 忠敏（大須賀小教頭）
- 渡邊 勝久（桜田小教頭）
- 中郡 岳夫（前林小教頭）
- 渡邊 秀子（津富浦小教頭）
- 鈴木 春雄（川上小教頭）
- 秋山 忍（市議会議員）※顧問
- 伊橋 利保（市議会議員）※顧問
- 福島 浩一（市議会議員）※顧問

下総みどり学園の状況を見ても、小中一貫教育は子どもたちに対するデメリットはほとんどないものと考えられます。しかしながら、この制度をより効果的に運用していくためには、適切な教職員の配置が不可欠です。現状におきましては、制度が追いついていないこともあり、教職員に負担がかかっていることは否めません。しかしながら、文部科学省でも、教育制度改革の一環として小中一貫教育の制度化の検討が進められております。教育委員会としても、大栄地区の小中一貫教育校の開校に向けて、制度化の実現に期待をしています。

統合小学校に関する様々なご質問やご要望は推進委員会委員の方々、あるいは教育委員会事務局まで遠慮なくお寄せくださいますようお願いいたします。

教育委員会事務局：Tel0476-20-1580